

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者 各位

記者発表資料 平成18年6月30日 環境創造局 環境科学研究所監視センター 担当課長 鈴木耕三 671-3445

(神奈川県、川崎市と同時発表)

平成17年度の大気汚染状況について

横浜市では、大気環境の状況を把握するため、環境基準が定められている二酸化硫黄、二酸化窒素等の汚染物質について、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）20局、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）8局の合計28局で自動測定機による連続測定を継続的に行っています。

また、ベンゼン等の有害大気汚染物質について、毎月、定点測定を行っています。

このたび、平成17年度の測定結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。（測定局一覧は資料編2ページ）

○二酸化硫黄：一般局で測定していますが、環境基準（長期的評価）には昭和55年度から継続して全局で適合しています。しかし、三宅島の噴煙に含まれる二酸化硫黄の影響により、短時間ですが通常時より高めの濃度の発生がみられました。

○二酸化窒素：日平均値の環境基準は0.06 ppm 以下
一般局20局、自排局8局で測定（資料編6～10ページ）

	測定局	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
環境基準 適合局数	一般局	17	19	20(全局)	20(全局)	20(全局)
	自排局	2	3	7	7	8(全局)
年平均値 (ppm)	一般局	0.028	0.027	0.026	0.025	0.025
	自排局	0.040	0.038	0.035	0.033	0.032
基準値を超 えた日数の 割合 (%)	一般局	0.6	0.7	0.1	0.2	0.2
	自排局	6.5	5.1	1.3	1.1	0.4

測定開始以来初めて全測定局で環境基準に適合するなど、全般的に改善を示しています。

○浮遊粒子状物質：日平均値の環境基準は 0.10 mg/m³ 以下

一般局 20 局、自排局 8 局で測定 (資料編 11～15 ページ)

	測定局	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
環境基準 適合局数	一般局	19	16	13	19	20(全局)
	自排局	4	3	3	8(全局)	8(全局)
年平均値 (mg/m ³)	一般局	0.033	0.031	0.031	0.029	0.032
	自排局	0.042	0.037	0.035	0.034	0.034
基準値を超 えた日数の 割合 (%)	一般局	0.4	0.4	0.5	0.1	0.2
	自排局	1.2	1.0	0.7	0.1	0.1

一般局では環境基準適合局数にバラツキがあり、年平均値は16年度より増加がみられましたが、初めて全測定局が環境基準（長期的評価）に適合するなど、全般的には改善を示しています。

(環境基準については資料編 20 ページ以降に記載しています。)

測定結果の概要

<自動測定機による連続測定>

1 二酸化硫黄 (資料編：3～5 ページ)

- ・昭和40年代から進めてきた工場等に対する規制・指導により排出量が大幅に削減され、環境濃度も大きく改善されています。
- ・年平均値は昭和42年度をピークに昭和50年度にかけて急激に低下し、その後も市内全域にわたって低濃度で推移しています。
- ・三宅島の噴煙による影響で、1時間値が0.1 ppm を超えることがみられました。

2 二酸化窒素 (資料編：6～10 ページ)

- ・昭和50年代から工場等に対する脱硝装置の設置やガス等の良質燃料への転換により、排出量の削減を図ってきました。また、新車に対する排出ガス規制が強化されてきています。
- ・環境基準には16年度に引き続き一般局で20局全局が、また、自排局では初めて8局全局が適合しています。

(次表及び資料編：一般局 6 ページ、自排局 9 ページ表 3-3)

二酸化窒素の環境基準適合局数の推移 (適合局数/全局数)

年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
一般局	13/19	13/20	10/20	15/20	18/20	17/20	19/20	20/20	20/20	20/20
自排局	1/8	1/8	0/8	2/8	2/8	2/8	3/8	7/8	7/8	8/8

- ・年平均値は一般局、自排局ともに横ばい状況で推移していたものが平成11年度にやや改善を示した後、緩やかに改善傾向を示しています。

(資料編：一般局 7、8 ページ、自排局 9 ページ表 3-4、10 ページ)

3 浮遊粒子状物質（資料編：11～15ページ）

- ・昭和40年代から工場等における集じん機の設置やガス燃料への転換等により、ばいじん排出量の削減を進めてきています。また、自動車排出ガスについても規制が強化されてきております。
- ・環境基準には一般局では初めて20局全局が、また、自排局では8局全局が16年度に引き続き適合しています。

（次表及び資料編：一般局 11ページ、自排局 14ページ表4-3）

浮遊粒子状物質の環境基準適合局数の推移（適合局数/全局数）

年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
一般局	2/19	5/20	4/20	17/20	5/20	19/20	16/20	13/20	19/20	20/20
自排局	0/8	0/8	0/8	4/8	3/8	4/8	3/8	3/8	8/8	8/8

- ・年平均値は17年度は16年度と比べ、一般局では増加がみられましたが、長期的には改善傾向にあります。

（資料編：一般局 12、13ページ、自排局 14ページ表4-4、15ページ）

4 一酸化炭素（資料編：16～17ページ）

- ・一酸化炭素の発生はほとんどが自動車によるもので、昭和40年代後半からの自動車排出ガス規制の効果により、環境濃度は大幅に改善されています。
- ・環境基準には昭和56年度から自排局全局で適合しています。
- ・年平均値は昭和52年度以降低下し、全市的に低濃度で推移しています。

5 光化学オキシダント（資料編：18～19ページ）

- ・光化学スモッグの指標である光化学オキシダント濃度については、原因物質である炭化水素系物質の蒸発防止や窒素酸化物排出量の削減を図ってきました。
- ・光化学スモッグ注意報の発令回数及び届出被害者数については、昭和50年前後をピークに減少しています。（資料編：19ページ表6-3）
- ・平成17年度は注意報の発令回数は5回で、届出被害者数は226名でした。（資料編：19ページ表6-2）
- ・なお、18年度は6月29日現在では、注意報の発令は2回、届出被害者数は0名となっております。
- ・環境基準には16年度と同様、全局が不適合でした。（資料編：18ページ）

<定時期定点測定>

6 有害大気汚染物質（資料編：21ページ）

環境基準又は指針値が設定されているベンゼン等を含め、22種の有害大気汚染物質について、毎月1回の測定を一般局3局、自排局2局で行っています。

- ・環境基準又は指針値が設定されている8物質とも適合しておりました。

7 ダイオキシン類 (資料編：22ページ)

大気環境中のダイオキシン類については、季節ごとに各区1地点、計18の定点で測定しました。

- ・各地点の年平均値は0.051から0.082 pg-TEQ/m³の範囲内にあり、環境基準 (年平均値0.6 pg-TEQ/m³以下) に適合していました。

資 料

平成 1 7 年度大気環境の状況について

	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	一酸化炭素	光化学オキシダント
一般局 (2 0 局)	○	○	○		○ (19 局)
自排局 (8 局)		○	○	○ (5 局)	

○印で測定

表2-1 二酸化硫黄年間測定結果
(一般環境大気測定局)

平成17年度

測定局	年平均値	1時間値が 0.1ppmを超 えた時間数	日平均値が 0.04ppmを超 えた日数	日平均値の 2%除外値	長期的評価によ る環境基準の適 否
	(ppm)	(時間)	(日)	(ppm)	(適○, 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.009	0	0	0.017	○
神奈川区総合庁舎	0.008	0	0	0.015	○
港北区総合庁舎	0.007	0	0	0.013	○
中区加曽台	0.009	0	0	0.017	○
磯子区総合庁舎	0.008	0	0	0.016	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.005	0	0	0.010	○
西区平沼小学校	0.006	0	0	0.011	○
金沢区長浜	0.006	1	0	0.011	○
鶴見区生麦小学校	0.007	0	0	0.013	○
中区本牧	0.009	0	0	0.017	○
戸塚区汲沢小学校	0.005	0	0	0.010	○
港南区野庭中学校	0.006	0	0	0.011	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.006	0	0	0.010	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.005	0	0	0.009	○
南区横浜商業高校	0.006	0	0	0.011	○
栄区犬山小学校	0.005	0	0	0.009	○
緑区三保小学校	0.005	0	0	0.009	○
青葉区総合庁舎	0.006	0	0	0.010	○
都筑区総合庁舎	0.007	0	0	0.013	○
泉区総合庁舎	0.006	0	0	0.010	○
平均	0.007	—	—	0.012	—

表 2 - 2 二酸化硫黄濃度の経年変化 (年平均値)
(一般環境大気測定局)

(ppm)

測定局 \ 年度	平成 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
鶴見区潮田交流プラザ	0.011	0.008	0.009	0.008	0.008	0.009	0.008	0.008	0.009	0.009
神奈川区総合庁舎	0.010	0.008	0.008	0.007	0.009	0.009	0.008	0.008	0.008	0.008
港北区総合庁舎	0.008	0.007	0.007	0.007	0.007	0.008	0.007	0.007	0.007	0.007
中区加曾台	0.010	0.009	0.009	0.009	0.010	0.010	0.008	0.009	0.009	0.009
磯子区総合庁舎	0.009	0.007	0.008	0.007	0.008	0.009	0.008	0.008	0.007	0.008
保土ヶ谷区桜丘高校	0.007	0.005	0.005	0.005	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005
西区平沼小学校	0.007	0.006	0.006	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006
金沢区長浜	0.007	0.006	0.006	0.005	0.006	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006
鶴見区生麦小学校	0.008	0.008	0.008	0.007	0.009	0.008	0.007	0.007	0.007	0.007
中区本牧	0.009	0.008	0.009	0.007	0.009	0.010	0.009	0.007	0.008	0.009
戸塚区汲沢小学校	0.005	0.004	0.005	0.005	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005
港南区野庭中学校	0.006	0.005	0.006	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006	0.005	0.006
旭区鶴ヶ峯小学校	0.006	0.005	0.005	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006	0.005	0.006
瀬谷区南瀬谷小学校	0.007	0.005	0.005	0.006	0.006	0.007	0.005	0.005	0.005	0.005
南区横浜商業高校	0.008	0.006	0.006	0.006	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006
栄区犬山小学校	0.006	0.005	0.005	0.005	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005
緑区三保小学校	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005
青葉区総合庁舎	0.007	0.005	0.006	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006
都筑区総合庁舎	0.008	0.007	0.007	0.006	0.007	0.008	0.007	0.007	0.008	0.007
泉区総合庁舎	—	0.006	0.006	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006
平均	0.008	0.006	0.007	0.006	0.007	0.008	0.007	0.006	0.006	0.007

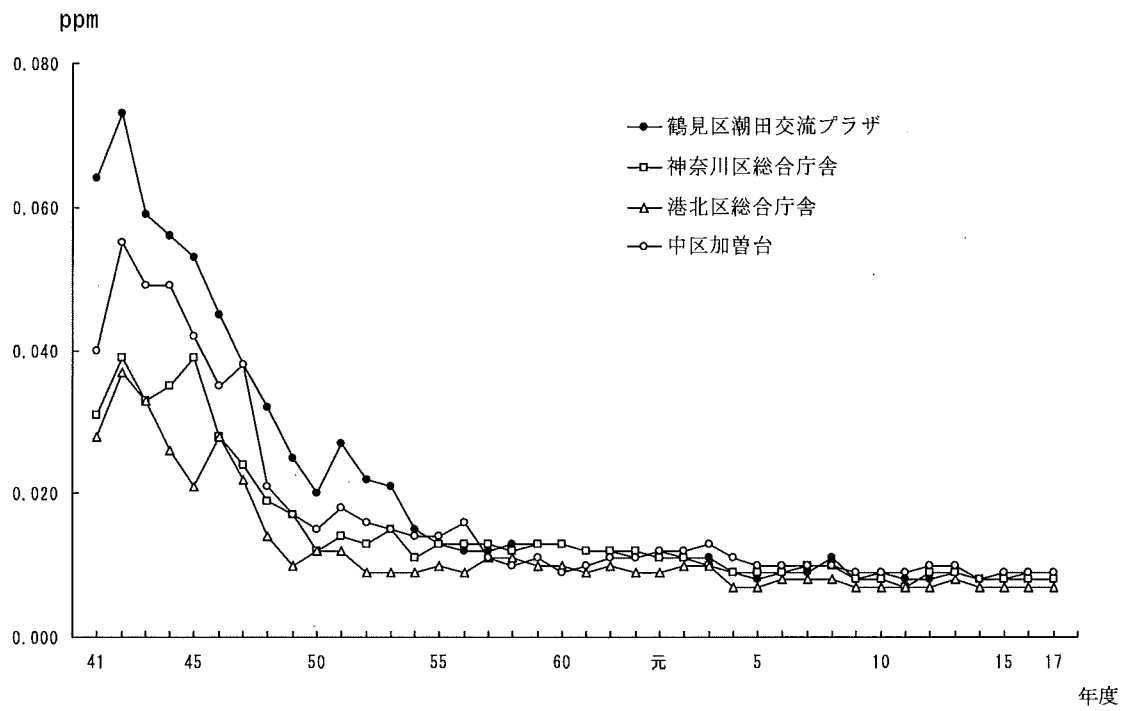


図 2 継続4局における二酸化硫黄濃度の経年変化 (年平均値)

表3-1 二酸化窒素年間測定結果
(一般環境大気測定局)

平成17年度

測 定 局	年平均値 (ppm)	日平均値が0.06ppm を超えた日数と割合		日平均値の 年間98%値 (ppm)	98%値評価に よる日平均値 が0.06ppmを 超えた日数	98%値評 価による 環境基準 の適否 適○ 否×
		(日)	(%)		(日)	
鶴見区潮田交流プラザ	0.029	1	0.3	0.050	0	○
神奈川区総合庁舎	0.029	1	0.3	0.050	0	○
港北区総合庁舎	0.028	1	0.3	0.049	0	○
中区加曽台	0.027	0	0.0	0.047	0	○
磯子区総合庁舎	0.028	0	0.0	0.051	0	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.025	1	0.3	0.046	0	○
西区平沼小学校	0.028	1	0.3	0.050	0	○
金沢区長浜	0.020	0	0.0	0.044	0	○
鶴見区生麦小学校	0.028	1	0.3	0.049	0	○
中区本牧	0.024	1	0.3	0.046	0	○
戸塚区汲沢小学校	0.022	0	0.0	0.044	0	○
港南区野庭中学校	0.022	0	0.0	0.045	0	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.023	1	0.3	0.044	0	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.025	0	0.0	0.049	0	○
南区横浜商業高校	0.026	1	0.3	0.048	0	○
栄区犬山小学校	0.020	0	0.0	0.044	0	○
緑区三保小学校	0.021	0	0.0	0.039	0	○
青葉区総合庁舎	0.026	1	0.3	0.043	0	○
都筑区総合庁舎	0.026	1	0.3	0.046	0	○
泉区総合庁舎	0.023	1	0.3	0.043	0	○
平 均	0.025	—	—	0.046	—	—

表 3 - 2 二酸化窒素濃度の経年変化 (年平均値)
(一般環境大気測定局)

(p p m)

測定局 \ 年度	平成 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
鶴見区潮田交流プラザ	0.037	0.038	0.037	0.033	0.036	0.036	0.032	0.030	0.029	0.029
神奈川区総合庁舎	0.037	0.038	0.039	0.036	0.037	0.030	0.031	0.031	0.029	0.029
港北区総合庁舎	0.037	0.036	0.036	0.033	0.033	0.034	0.032	0.029	0.027	0.028
中区加曽台	0.033	0.033	0.035	0.032	0.033	0.034	0.032	0.031	0.027	0.027
磯子区総合庁舎	0.033	0.037	0.039	0.035	0.034	0.029	0.029	0.029	0.027	0.028
保土ヶ谷区桜丘高校	0.031	0.032	0.033	0.030	0.031	0.032	0.026	0.026	0.024	0.025
西区平沼小学校	0.036	0.035	0.036	0.033	0.033	0.034	0.028	0.028	0.027	0.028
金沢区長浜	0.025	0.024	0.026	0.022	0.022	0.021	0.021	0.020	0.020	0.020
鶴見区生麦小学校	0.036	0.035	0.036	0.027	0.028	0.029	0.028	0.028	0.027	0.028
中区本牧	0.030	0.029	0.032	0.023	0.026	0.024	0.026	0.025	0.025	0.024
戸塚区汲沢小学校	0.029	0.028	0.029	0.022	0.021	0.022	0.023	0.023	0.021	0.022
港南区野庭中学校	0.028	0.028	0.029	0.022	0.022	0.023	0.023	0.022	0.021	0.022
旭区鶴ヶ峯小学校	0.031	0.030	0.030	0.023	0.023	0.023	0.025	0.025	0.022	0.023
瀬谷区南瀬谷小学校	0.033	0.032	0.031	0.024	0.023	0.023	0.025	0.024	0.023	0.025
南区横浜商業高校	0.033	0.030	0.033	0.028	0.028	0.027	0.027	0.027	0.025	0.026
栄区犬山小学校	0.027	0.026	0.028	0.025	0.025	0.025	0.025	0.023	0.020	0.020
緑区三保小学校	0.028	0.027	0.028	0.024	0.026	0.027	0.025	0.024	0.022	0.021
青葉区総合庁舎	0.035	0.033	0.033	0.030	0.031	0.031	0.030	0.028	0.026	0.026
都筑区総合庁舎	0.033	0.032	0.032	0.029	0.031	0.031	0.030	0.028	0.026	0.026
泉区総合庁舎	—	0.028	0.030	0.027	0.028	0.029	0.025	0.023	0.022	0.023
平均	0.032	0.032	0.033	0.028	0.029	0.028	0.027	0.026	0.025	0.025

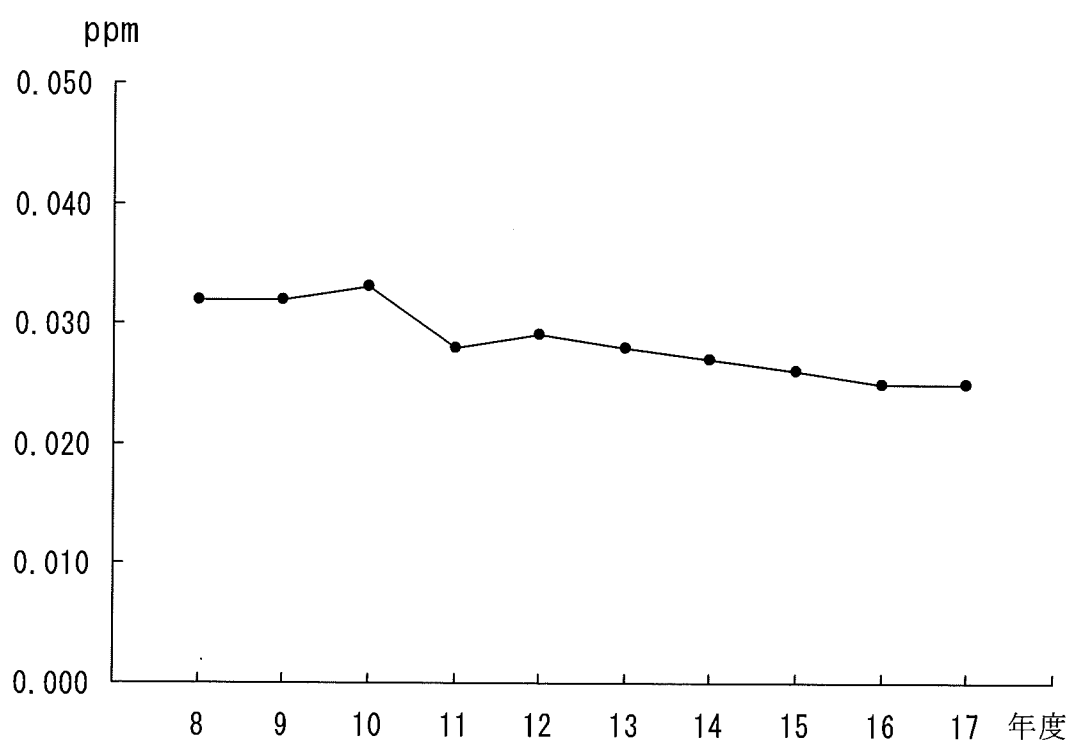


図3-1 二酸化窒素濃度の経年変化 (一般局10年継続19局年平均値)

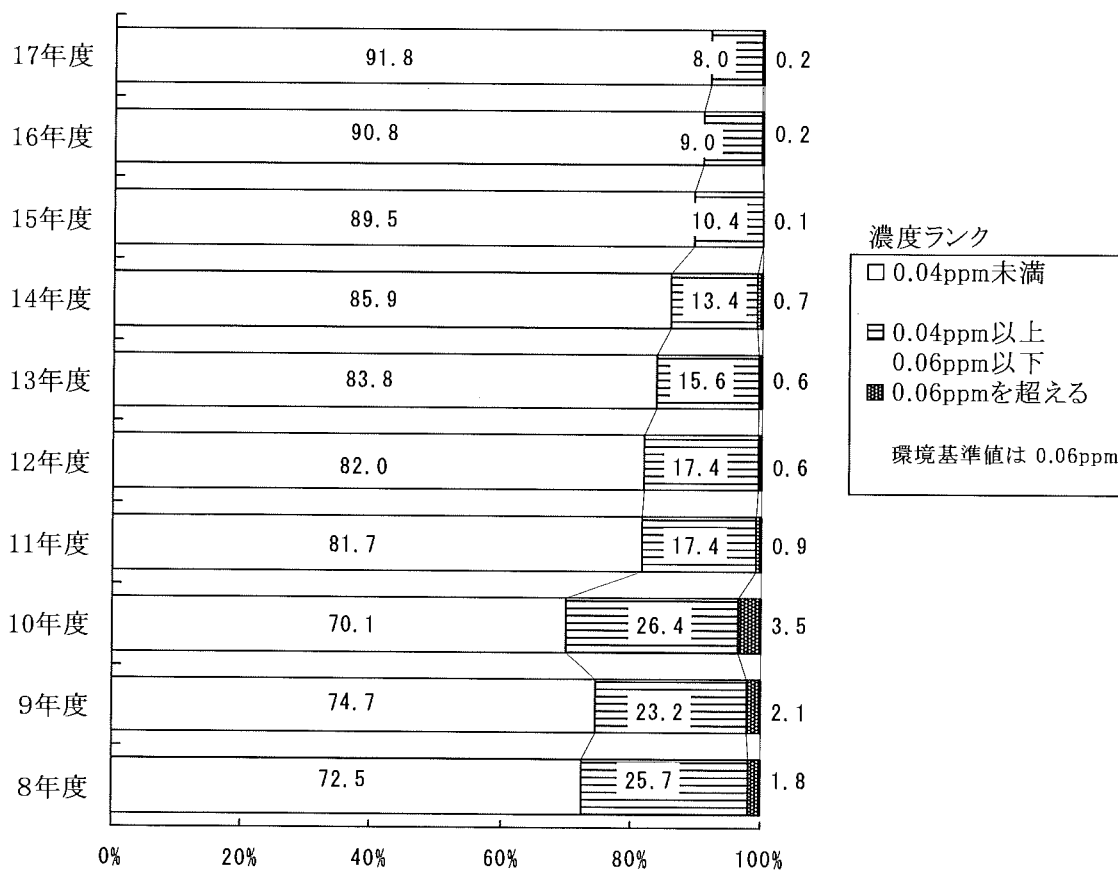


図3-2 二酸化窒素日平均濃度のランク別割合 (一般局10年継続19局平均)

表 3 - 3 二酸化窒素年間測定結果
(自動車排出ガス測定局)

平成 17 年度

測 定 局	年平均値 (p p m)	日平均値が0.06ppm を超えた日数と割合		日平均値の 年間98%値 (p p m)	98%値評価に よる日平均値 が0.06ppmを 超えた日数 (日)	98%値評 価による 環境基準 の適否 適○ 否×
		(日)	(%)			
鶴見区下末吉小学校	0.032	2	0.5	0.055	0	○
西区浅間下交差点	0.040	4	1.1	0.058	0	○
港南中学校	0.031	1	0.3	0.051	0	○
戸塚区矢沢交差点	0.028	0	0.0	0.045	0	○
旭区都岡小学校	0.030	1	0.3	0.049	0	○
青葉台	0.033	1	0.3	0.051	0	○
資源循環都筑工場前	0.025	1	0.3	0.044	0	○
磯子区滝頭	0.035	2	0.6	0.055	0	○
平 均	0.032	-	-	0.051	-	-

表 3 - 4 二酸化窒素濃度の経年変化 (年平均値)
(自動車排出ガス測定局)

(p p m)

測定局	年度									
	平成 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
鶴見区下末吉小学校	0.043	0.043	0.044	0.040	0.041	0.043	0.040	0.033	0.031	0.032
西区浅間下交差点	0.053	0.052	0.054	0.050	0.047	0.050	0.048	0.041	0.039	0.040
港南中学校	0.039	0.039	0.040	0.038	0.037	0.037	0.035	0.034	0.033	0.031
戸塚区矢沢交差点	0.041	0.039	0.040	0.031	0.030	0.031	0.031	0.031	0.031	0.028
旭区都岡小学校	0.042	0.042	0.043	0.040	0.039	0.040	0.038	0.037	0.030	0.030
青葉台	0.041	0.041	0.042	0.040	0.040	0.041	0.039	0.039	0.037	0.033
資源循環都筑工場前	0.034	0.032	0.034	0.032	0.033	0.033	0.030	0.028	0.027	0.025
磯子区滝頭	0.049	0.047	0.047	0.043	0.044	0.045	0.044	0.037	0.034	0.035
平 均	0.043	0.042	0.043	0.039	0.039	0.040	0.038	0.035	0.033	0.032

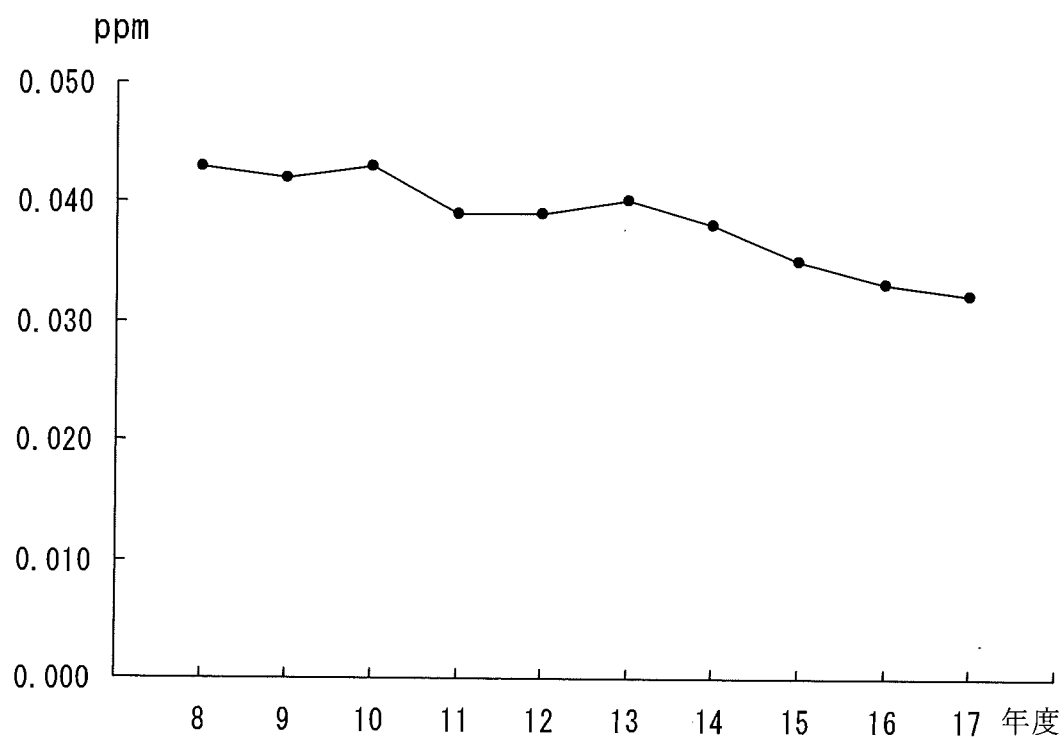


図3-3 二酸化窒素濃度の経年変化 (自排局全8局年平均値)

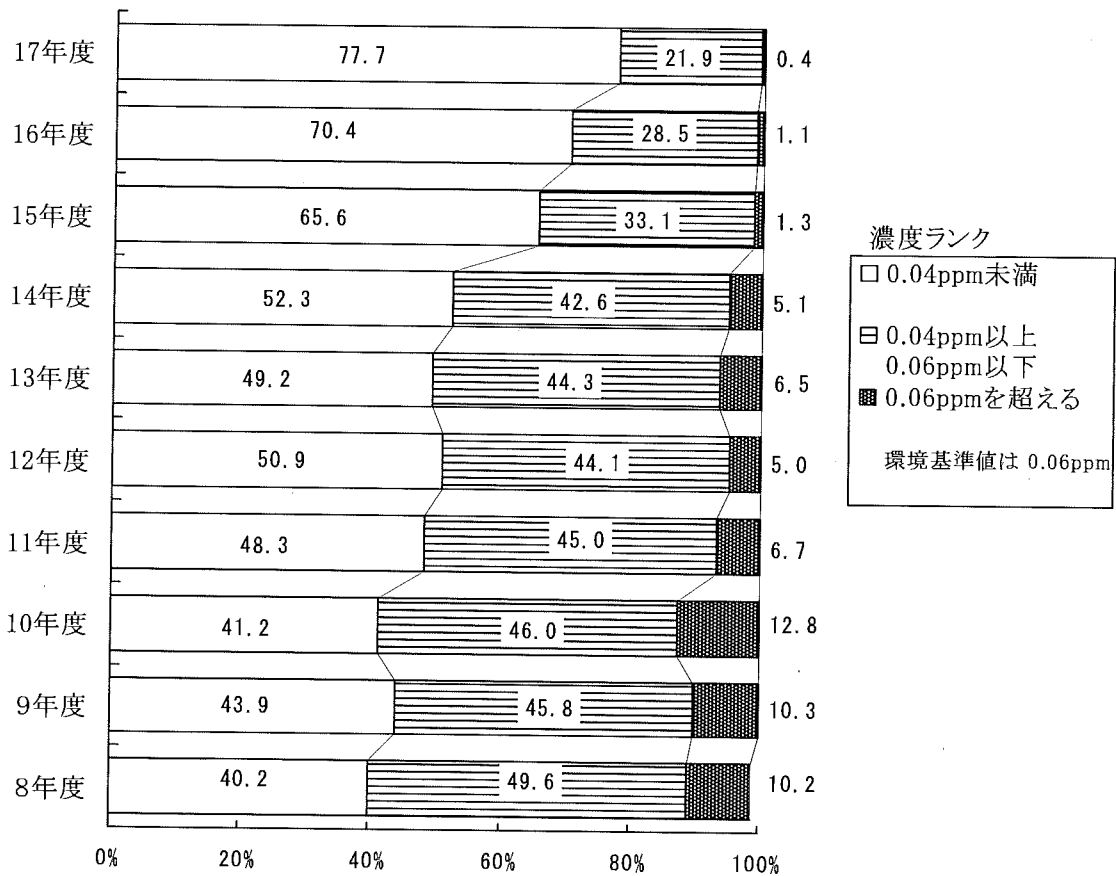


図3-4 二酸化窒素日平均濃度のランク別割合 (自排局全8局平均)

表4-1 浮遊粒子状物質年間測定結果
(一般環境大気測定局)

平成17年度

測定局	年平均値	1時間値が0.20 mg/m ³ を超えた 時間数	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその 割合		日平均値の 2%除外値	長期的評価による 環境基準の適否
	(mg/m ³)	(時間)	(日)	(%)	(mg/m ³)	(適○, 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.033	0	0	0.0	0.071	○
神奈川区総合庁舎	0.033	0	1	0.3	0.075	○
港北区総合庁舎	0.030	0	0	0.0	0.064	○
中区加曾台	0.034	2	2	0.6	0.082	○
磯子区総合庁舎	0.033	0	2	0.6	0.079	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.032	0	1	0.3	0.071	○
西区平沼小学校	0.034	0	1	0.3	0.068	○
金沢区長浜	0.029	0	0	0.0	0.063	○
鶴見区生麦小学校	0.032	1	1	0.3	0.073	○
中区本牧	0.032	0	1	0.3	0.075	○
戸塚区汲沢小学校	0.031	0	0	0.0	0.069	○
港南区野庭中学校	0.031	0	0	0.0	0.068	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.032	0	0	0.0	0.069	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.035	0	0	0.0	0.074	○
南区横浜商業高校	0.031	0	0	0.0	0.064	○
栄区犬山小学校	0.030	0	0	0.0	0.065	○
緑区三保小学校	0.031	2	2	0.6	0.074	○
青葉区総合庁舎	0.032	0	0	0.0	0.072	○
都筑区総合庁舎	0.029	0	0	0.0	0.060	○
泉区総合庁舎	0.031	0	0	0.0	0.069	○
平均	0.032	—	—	—	0.070	—

表4-2 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（年平均値）
（一般環境大気測定局）

(mg/m³)

測定局 \ 年度	平成 8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
鶴見区潮田交流プラザ	0.045	0.041	0.039	0.032	0.035	0.033	0.035	0.037	0.032	0.033
神奈川区総合庁舎	0.040	0.039	0.038	0.031	0.035	0.032	0.029	0.034	0.032	0.033
港北区総合庁舎	0.041	0.041	0.040	0.033	0.036	0.035	0.031	0.032	0.029	0.030
中区加曾台	0.034	0.033	0.035	0.029	0.033	0.031	0.029	0.032	0.031	0.034
磯子区総合庁舎	0.037	0.036	0.039	0.031	0.031	0.030	0.028	0.026	0.030	0.033
保土ヶ谷区桜丘高校	0.039	0.038	0.037	0.031	0.035	0.033	0.030	0.028	0.027	0.032
西区平沼小学校	0.045	0.043	0.043	0.038	0.038	0.039	0.033	0.031	0.027	0.034
金沢区長浜	0.029	0.029	0.028	0.024	0.027	0.025	0.024	0.022	0.020	0.029
鶴見区生麦小学校	0.044	0.042	0.042	0.036	0.038	0.037	0.034	0.034	0.030	0.032
中区本牧	0.033	0.033	0.033	0.026	0.031	0.029	0.032	0.032	0.029	0.032
戸塚区汲沢小学校	0.043	0.042	0.040	0.036	0.038	0.038	0.032	0.031	0.030	0.031
港南区野庭中学校	0.032	0.031	0.030	0.023	0.027	0.027	0.030	0.031	0.033	0.031
旭区鶴ヶ峯小学校	0.048	0.041	0.036	0.026	0.029	0.032	0.031	0.032	0.029	0.032
瀬谷区南瀬谷小学校	0.043	0.042	0.040	0.037	0.037	0.037	0.038	0.038	0.034	0.035
南区横浜商業高校	0.040	0.040	0.041	0.034	0.038	0.036	0.033	0.030	0.029	0.031
栄区大山小学校	0.031	0.030	0.031	0.025	0.029	0.027	0.026	0.024	0.027	0.030
緑区三保小学校	0.041	0.038	0.038	0.032	0.034	0.034	0.033	0.035	0.029	0.031
青葉区総合庁舎	0.043	0.043	0.041	0.035	0.036	0.035	0.031	0.029	0.029	0.032
都筑区総合庁舎	0.040	0.039	0.037	0.031	0.033	0.031	0.029	0.026	0.027	0.029
泉区総合庁舎	—	0.039	0.039	0.033	0.034	0.034	0.032	0.029	0.029	0.031
平均	0.039	0.038	0.037	0.031	0.034	0.033	0.031	0.031	0.029	0.032

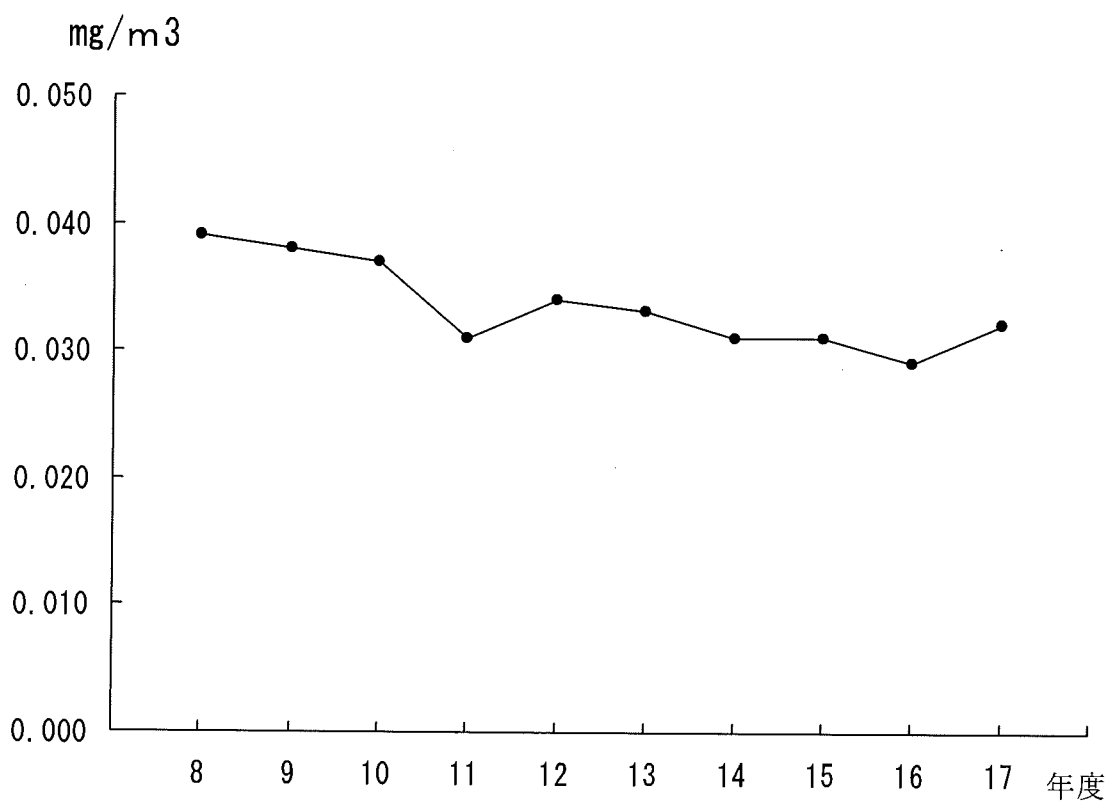


図4-1 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（一般局10年継続19局年平均値）

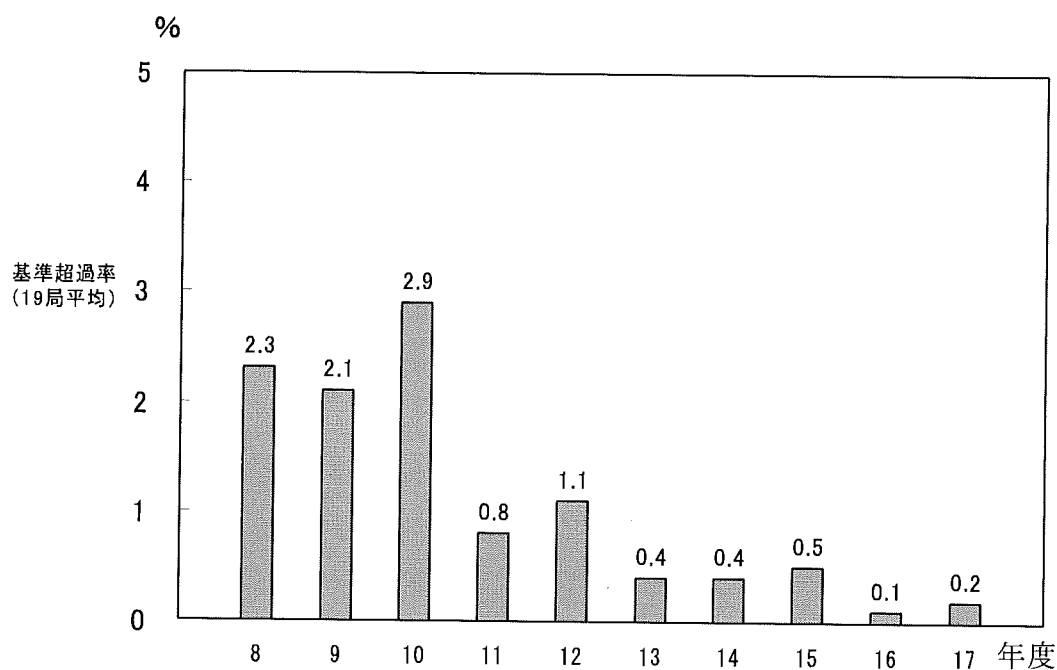


図4-2 浮遊粒子状物質濃度の日平均値が環境基準（0.10mg/m³）を超えた日の年間比率の推移（一般局継続19局平均）

表4-3 浮遊粒子状物質年間測定結果
(自動車排出ガス測定局)

平成17年度

測定局	年平均値	1時間値が0.20 mg/m ³ を超えた 時間数	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその 割合		日平均値の 2%除外値	長期的評価による 環境基準の適否
	(mg/m ³)		(時間)	(日)		
鶴見区下末吉小学校	0.035	0	0	0.0	0.078	○
西区浅間下交差点	0.038	0	1	0.3	0.078	○
港南中学校	0.032	0	0	0.0	0.065	○
戸塚区矢沢交差点	0.034	0	1	0.3	0.069	○
旭区都岡小学校	0.033	0	1	0.3	0.072	○
青葉台	0.036	0	0	0.0	0.070	○
資源循環都筑工場前	0.031	0	0	0.0	0.067	○
磯子区滝頭	0.034	0	1	0.3	0.075	○
平均	0.034	—	—	—	0.072	—

表4-4 浮遊粒子状物質濃度の経年変化(年平均値)
(自動車排出ガス測定局)

(mg/m³)

測定局	年度	平成									
		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
鶴見区下末吉小学校		0.057	0.055	0.051	0.039	0.041	0.039	0.036	0.036	0.033	0.035
西区浅間下交差点		0.074	0.074	0.074	0.058	0.059	0.055	0.045	0.038	0.039	0.038
港南中学校		0.044	0.042	0.042	0.035	0.037	0.034	0.031	0.033	0.032	0.032
戸塚区矢沢交差点		0.045	0.045	0.044	0.038	0.038	0.036	0.034	0.033	0.032	0.034
旭区都岡小学校		0.058	0.056	0.053	0.045	0.047	0.044	0.038	0.038	0.034	0.033
青葉台		0.062	0.055	0.055	0.047	0.047	0.043	0.040	0.042	0.039	0.036
資源循環都筑工場前		0.053	0.050	0.046	0.039	0.039	0.036	0.033	0.028	0.031	0.031
磯子区滝頭		0.078	0.074	0.068	0.048	0.048	0.048	0.041	0.035	0.032	0.034
平均		0.059	0.056	0.054	0.044	0.045	0.042	0.037	0.035	0.034	0.034

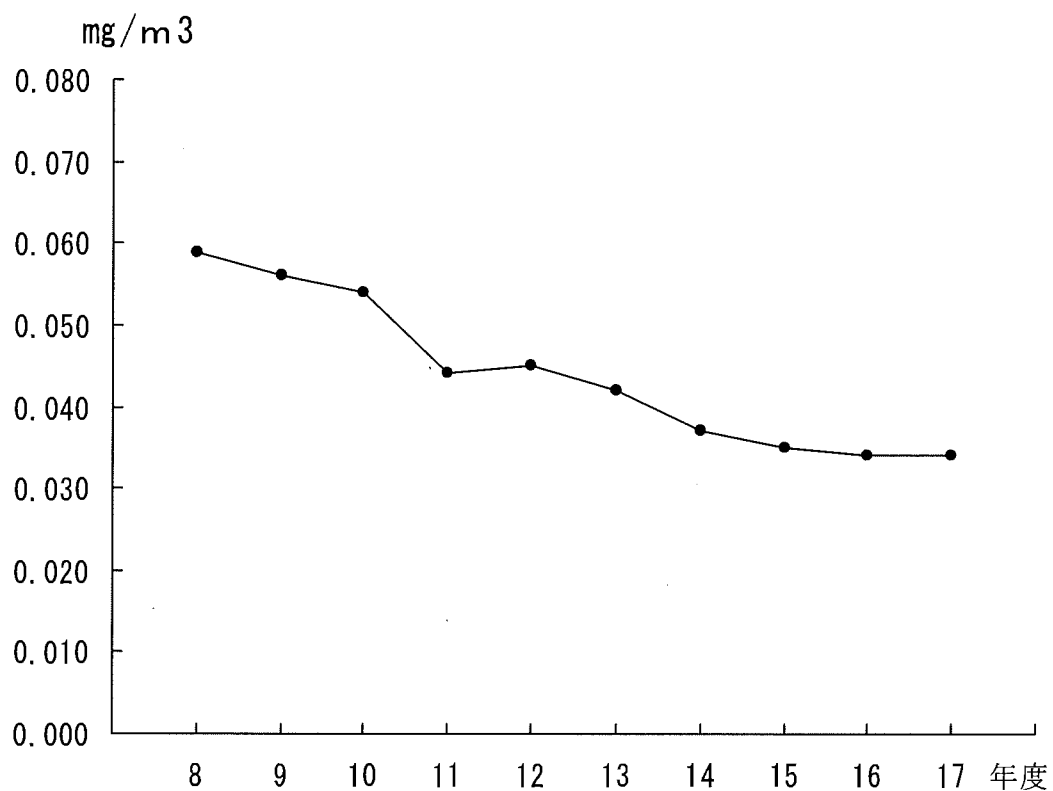


図4-3 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（自排局全8局年平均値）

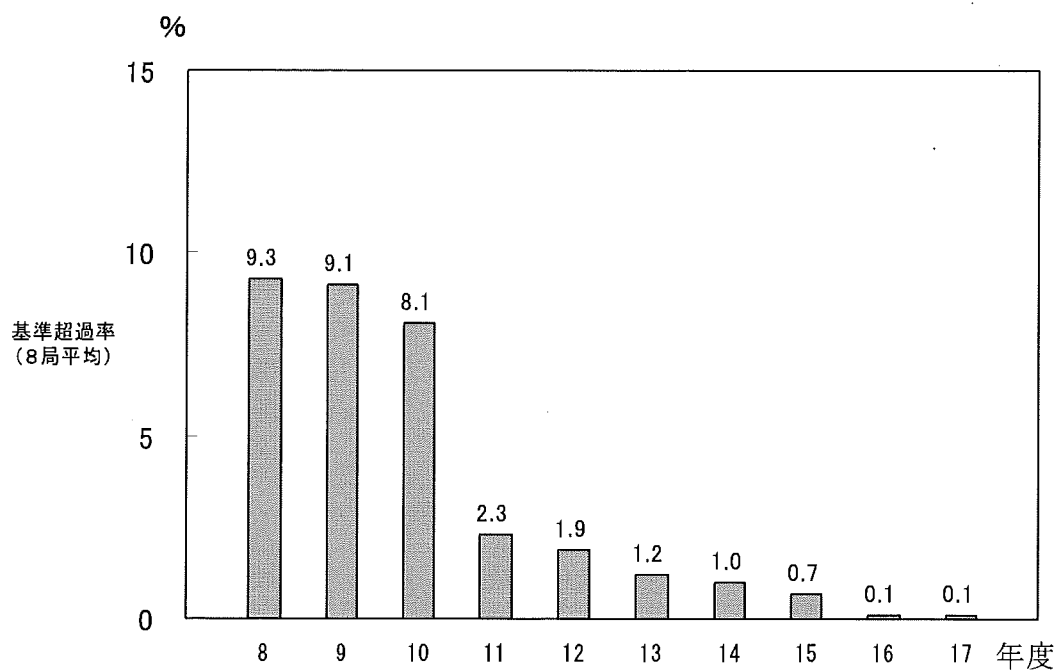


図4-4 浮遊粒子状物質濃度の日平均値が環境基準（0.10mg/m³）を超えた日の年間比率の推移（自排局全8局平均）

表 5 - 1 一酸化炭素年間測定結果
(自動車排出ガス測定局)

平成 1 7 年度

測 定 局	年平均値	8 時間値が20ppm を超えた回数	日平均値が10ppm を超えた日数	日平均値 の 2 % 除 外値	長期的評価によ る環境基準の適 否
	(ppm)	(回)	(日)	(ppm)	(適○, 否×)
西区浅間下交差点	1 . 2	0	0	2 . 1	○
港南中学校	0 . 7	0	0	1 . 4	○
戸塚区矢沢交差点	0 . 7	0	0	1 . 3	○
旭区都岡小学校	0 . 8	0	0	1 . 8	○
青葉台	0 . 8	0	0	1 . 4	○
平 均	0 . 8	—	—	1 . 6	—

表 5 - 2 一酸化炭素濃度の経年変化 (年平均値)
(自動車排出ガス測定局)

(p p m)

測定局	年度									
	平成 8	9	1 0	1 1	1 2	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7
西区浅間下交差点	2.1	2.0	2.0	1.7	1.6	1.6	1.4	1.3	1.2	1.2
港南中学校	1.1	1.0	1.0	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7
戸塚区矢沢交差点	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7
旭区都岡小学校	1.5	1.4	1.3	1.2	1.1	1.1	1.0	0.9	0.8	0.8
青葉台	1.2	1.1	1.1	0.9	0.9	1.0	0.9	0.8	0.8	0.8
平 均	1.4	1.3	1.3	1.1	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	0.8

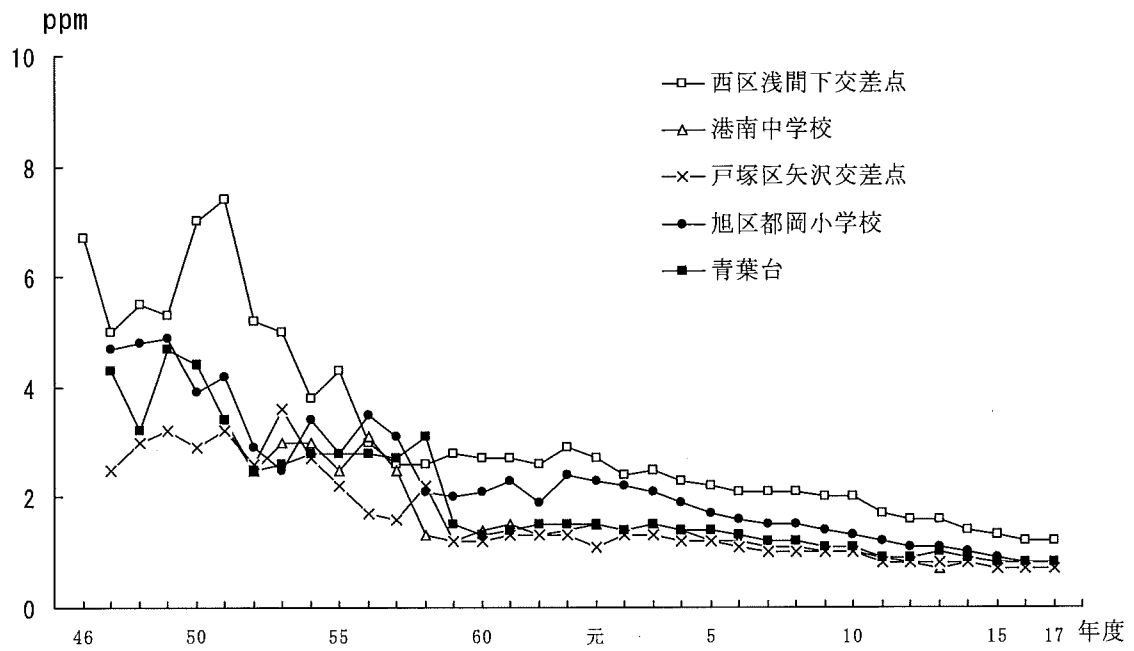


図 5 一酸化炭素濃度の経年変化 (自排局・年平均値)

表6-1 光化学オキシダント年間測定結果
(一般環境大気測定局)

平成17年度

測定局	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数		昼間の1時間値の最高値	環境基準の適否 (適○, 否×)
	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	
鶴見区潮田交流プラザ	0.023	61	226	1	6	0.150	×
神奈川区総合庁舎	0.022	47	200	3	10	0.184	×
港北区総合庁舎	0.023	45	188	2	5	0.138	×
磯子区総合庁舎	0.024	54	215	2	6	0.154	×
保土ヶ谷区桜丘高校	0.024	72	303	2	6	0.148	×
西区平沼小学校	0.025	89	379	4	8	0.160	×
金沢区長浜	0.029	90	421	1	6	0.157	×
鶴見区生麦小学校	0.024	55	212	3	6	0.143	×
中区本牧	0.025	53	220	1	5	0.167	×
戸塚区汲沢小学校	0.030	109	517	2	7	0.175	×
港南区野庭中学校	0.029	107	507	1	5	0.171	×
旭区鶴ヶ峯小学校	0.030	110	539	4	10	0.177	×
瀬谷区南瀬谷小学校	0.027	89	388	3	8	0.171	×
南区横浜商業高校	0.026	87	401	2	7	0.153	×
栄区犬山小学校	0.031	111	558	1	6	0.170	×
緑区三保小学校	0.029	109	545	6	14	0.183	×
青葉区総合庁舎	0.026	84	393	5	14	0.169	×
都筑区総合庁舎	0.027	90	422	4	13	0.169	×
泉区総合庁舎	0.027	78	342	2	7	0.161	×
平均	0.026	—	—	—	—	—	—

表 6 - 2 平成 17 年度光化学スモッグ注意報発令状況 (横浜市域)

回数	発令日 (曜日)	措置 種類	発 令 時 刻	市内 0 x 最高値 (p p m)	市内届出 被害者数	神奈川県内他地域 発令状況
1	8月 4日 (木)	注意報	15:20~17:20	0.123 青葉庁舎 (16時)	0人	川崎
2	8月 5日 (金)	注意報	14:20~17:20	0.184 神奈川庁舎(14時)	0人	川崎、湘南、県央、 横須賀、西湘
3	8月17日 (水)	注意報	15:20~16:20	0.125 三保小 (15時)	0人	
4	9月 1日 (木)	注意報	12:20~19:20	0.183 三保小 (14時)	226人	川崎、横須賀、湘南、県央
5	9月 2日 (金)	注意報	11:20~14:20	0.152 青葉庁舎 (14時)	0人	川崎、県央

表 6 - 3 光化学スモッグ注意報発令回数及び届出被害者数の推移

項目	年度																	
	昭和 46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
注意報発令回数	8	10	20	9	12	7	3	11	4	3	8	2	3	4	6	2	12	2
警報発令回数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
届出被害者数 (人)	2337	834	1545	205	6175	823	909	61	268	0	454	3	178	65	113	0	136	7

項目	年度																
	平成 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
注意報発令回数	2	5	5	10	3	8	11	5	3	4	2	6	8	6	4	10	5
警報発令回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
届出被害者数 (人)	0	0	340	90	0	12	0	0	0	0	0	4	0	5	0	1	226

大気汚染に係わる環境基準と評価方法について

物 質	環 境 基 準	評 価 方 法
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm 以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること。	長期的評価 * 1
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppm から0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下であること。	98%値評価 * 2
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	長期的評価 * 1
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10ppm 以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。	長期的評価 * 1
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm 以下であること。	昼間 * 3

* 1 長期的評価

年間の1日平均値のうち、高いほうから2%の範囲にあるものを除外した後の最高値(2%除外値)を環境基準と比較して評価する。
ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、非達成と評価する。

* 2 98%値評価

年間の1日平均値のうち、低いほうから98%に相当するものを環境基準に比較して評価する。

* 3 昼間

5～20時のデータを対象とする。

表 7 有害大気汚染物質濃度測定結果 (平成17年度)

測定項目	測定地点 鶴見区 潮田交流 プラザ (一般局)	中区 本 牧 (一般局)	緑区 三保小学校 (一般局)	戸塚区 矢沢交差点 (自排局)	磯子区 滝 頭 (自排局)	単位
ベンゼン	1.6	1.7	1.5	2.0	2.2	μg/m ³
トリクロロエチレン	1.0	0.53	0.67	0.59	0.61	
テトラクロロエチレン	0.40	0.29	0.34	0.34	0.34	
ジクロロメタン	2.0	0.96	1.6	2.7	1.5	
アクリロニトリル	0.13	0.081	0.051	0.11	0.13	
塩化ビニルモノマー	0.055	0.057	0.029	0.041	0.072	
クロロホルム	0.14	0.13	0.13	0.14	0.12	
1,2-ジクロロエタン	0.096	0.097	0.12	0.11	0.12	
1,3-ブタジエン	0.26	0.21	0.17	0.28	0.39	
アセトアルデヒド	2.2	1.5	2.0	1.9	2.5	
ホルムアルデヒド	2.4	1.7	2.0	2.1	2.9	
四塩化炭素	0.60	0.58	0.57	0.63	0.58	
1,2-ジクロロプロパン	0.066	0.039	0.047	0.066	0.052	
1,1,1-トリクロロエタン	0.12	0.11	0.11	0.12	0.11	
酸化エチレン	0.072	0.081	0.065	0.070	0.081	
ベンゾ(a)ピレン	0.28	0.30	0.23	0.34	0.49	ng/m ³
ニッケル化合物	1.4	9.8	3.6	5.9	9.8	
バリウム及びその化合物	0.051	0.044	0.043	0.046	0.041	
マンガン及びその化合物	3.4	2.8	2.7	2.7	3.0	
クロム及びその化合物	1.3	7.7	5.9	7.7	1.1	
ヒ素及びその化合物	1.2	1.1	1.5	1.5	1.2	
水銀及びその化合物	2.1	1.9	2.0	2.1	2.2	

環境基準：(年平均値)

ベンゼン	3 μg/m ³ (0.003 mg/m ³) 以下
トリクロロエチレン	200 μg/m ³ (0.2 mg/m ³) 以下
テトラクロロエチレン	200 μg/m ³ (0.2 mg/m ³) 以下
ジクロロメタン	150 μg/m ³ (0.15 mg/m ³) 以下

国の指針値：(年平均値)

アクリロニトリル	2 μg/m ³ (0.002 mg/m ³) 以下
塩化ビニルモノマー	10 μg/m ³ (0.01 mg/m ³) 以下
ニッケル化合物	25 ng Ni/m ³ (0.000025 mg Ni/m ³) 以下
水銀	40 ng Hg/m ³ (0.00004 mg Hg/m ³) 以下

表 8 大気環境中ダイオキシン類の測定結果（平成17年度）

（単位：pg-TEQ/m³）

測定地点	春 17年5月 19日～26日	夏 17年8月 18日～25日	秋 17年11月 17日～24日	冬 18年1月26日 ～2月2日	年平均値
1 鶴見区生麦小学校	0.071	0.018	0.082	0.086	0.064
2 神奈川区総合庁舎	0.056	0.020	0.074	0.082	0.058
3 西区平沼小学校	0.035	0.017	0.071	0.11	0.058
4 中区本牧	0.12	0.016	0.072	0.12	0.082
5 南区横浜商業高校	0.030	0.012	0.068	0.13	0.060
6 港南区野庭中学校	0.033	0.018	0.086	0.11	0.062
7 保土ヶ谷区桜丘高校	0.031	0.016	0.065	0.12	0.058
8 旭区鶴ヶ峯小学校	0.043	0.039	0.059	0.12	0.065
9 磯子区総合庁舎	0.025	0.015	0.070	0.11	0.055
10 金沢区長浜	0.021	0.011	0.062	0.11	0.051
11 港北区総合庁舎	0.052	0.017	0.067	0.094	0.058
12 緑区三保小学校	0.031	0.014	0.061	0.12	0.057
13 青葉区総合庁舎	0.036	0.022	0.079	0.13	0.067
14 都筑区総合庁舎	0.040	0.021	0.052	0.12	0.058
15 戸塚区汲沢小学校	0.026	0.017	0.076	0.10	0.055
16 栄区犬山小学校	0.024	0.015	0.057	0.11	0.052
17 泉区総合庁舎	0.026	0.029	0.11	0.12	0.071
18 瀬谷区南瀬谷小学校	0.027	0.036	0.079	0.11	0.063
平均値	0.040	0.020	0.072	0.11	0.061

単位 pg：ピコグラム。1ピコグラムは、1兆分の1グラム。

TEQ = 「毒性等量」。ダイオキシン類の量を、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-p-ダイオキシンの量に換算した量として表していることを示す符号です。

環境基準：複数回の測定値の年平均値で 0.6 pg-TEQ/m³ 以下